

・調査の概要

1. 調査対象期間

平成19年7月～9月の3ヶ月間

2. 調査施設数

従業者数10人以上のホテル、旅館及び簡易宿所10,406施設

	10～29人	30～99人	100人～	計
施設数	5,971	3,371	1,064	10,406

3. 回収率

72.4% (7,533施設)

・調査結果の概要

1. 平成19年7月～9月の調査結果

(1) 延べ宿泊者数

延べ宿泊者数は8,515万人泊で、うち外国人は571万人泊(宿泊者全体に占める割合は6.7%)

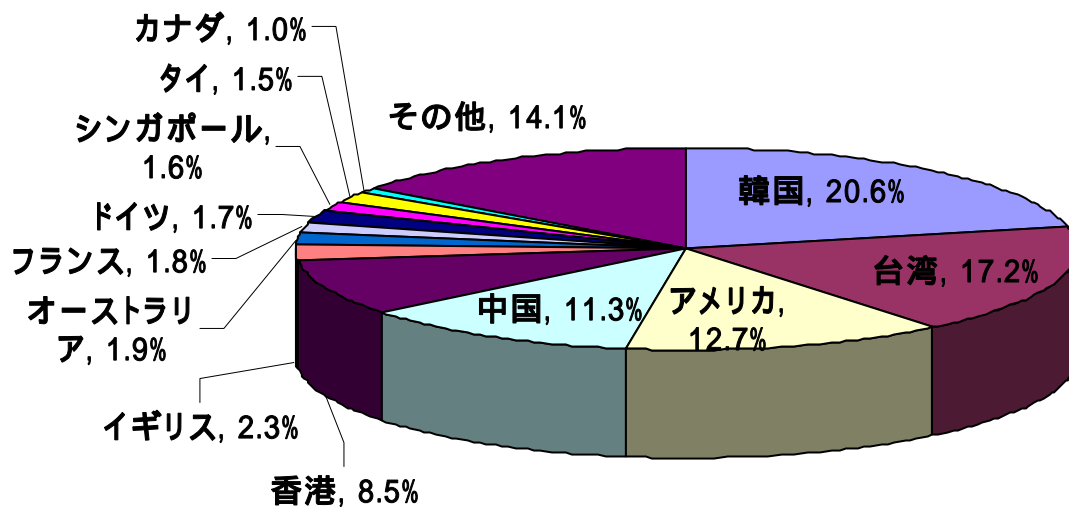
(2) 国籍別外国人宿泊者数

国籍(出身地)別外国人延べ宿泊者数は第1位が韓国、第2位が台湾、第3位がアメリカで、上位3カ国(地域)で全体の5割超
次いで、中国、香港の順で、これら5カ国・地域の全体のシェアは7割超

国籍別外国人延べ宿泊者数

(万人泊)

順位	国籍(出身地)	合計	
			シェア
第1位	韓国	117	20.6%
第2位	台湾	98	17.2%
第3位	アメリカ	73	12.7%
第4位	中国	64	11.3%
第5位	香港	49	8.5%
第6位	イギリス	13	2.3%
第7位	オーストラリア	11	1.9%
第8位	フランス	10	1.8%
第9位	ドイツ	10	1.7%
第10位	シンガポール	9	1.6%
第11位	タイ	9	1.5%
第12位	カナダ	6	1.0%
	その他	81	14.1%
	合計	571	100.0%

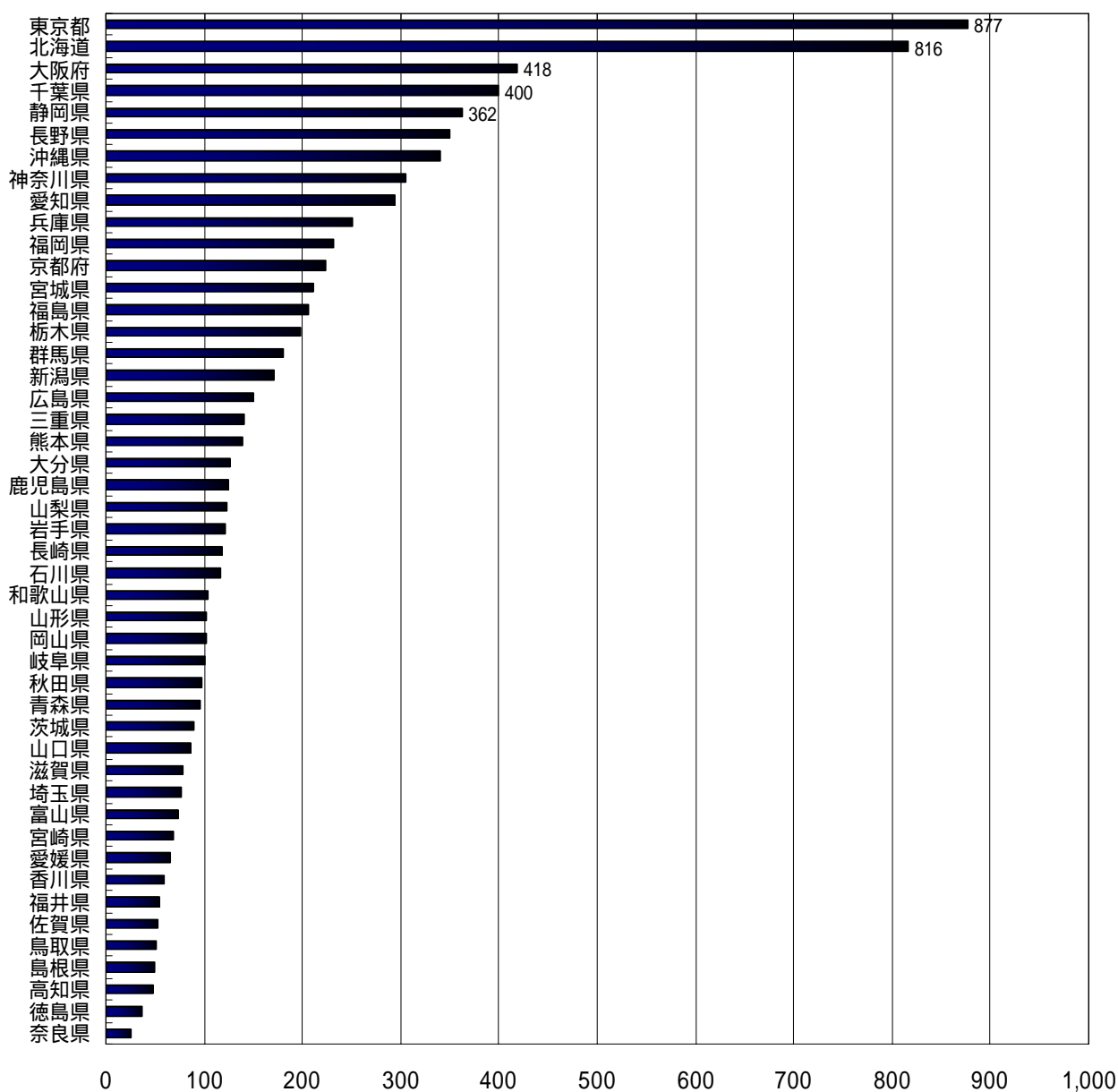


(3) 都道府県別延べ宿泊者数

都道府県別延べ宿泊者数は、東京都が最多、第2位が北海道、第3位が大阪府、第4位が千葉県、第5位が静岡県であり、上位5都道府県の全国でのシェアは3割超

都道府県別延べ宿泊者数

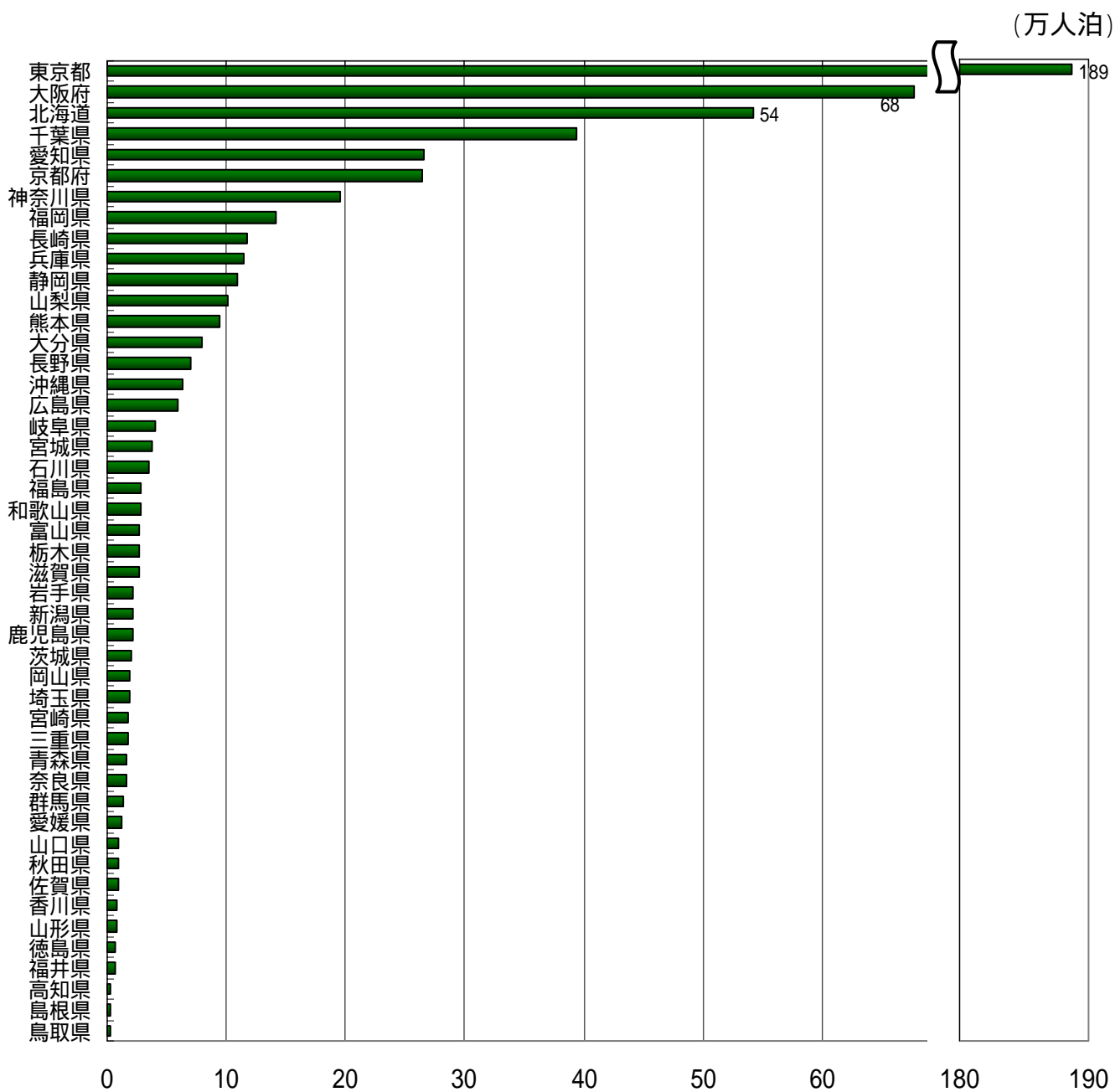
(万人泊)



(4) 都道府県別外国人延べ宿泊者数

都道府県別外国人延べ宿泊者数は、東京都が最多、第2位が大阪府、第3位が北海道であり、上位3都道府県の全国でのシェアは5割超

都道府県別外国人延べ宿泊者数

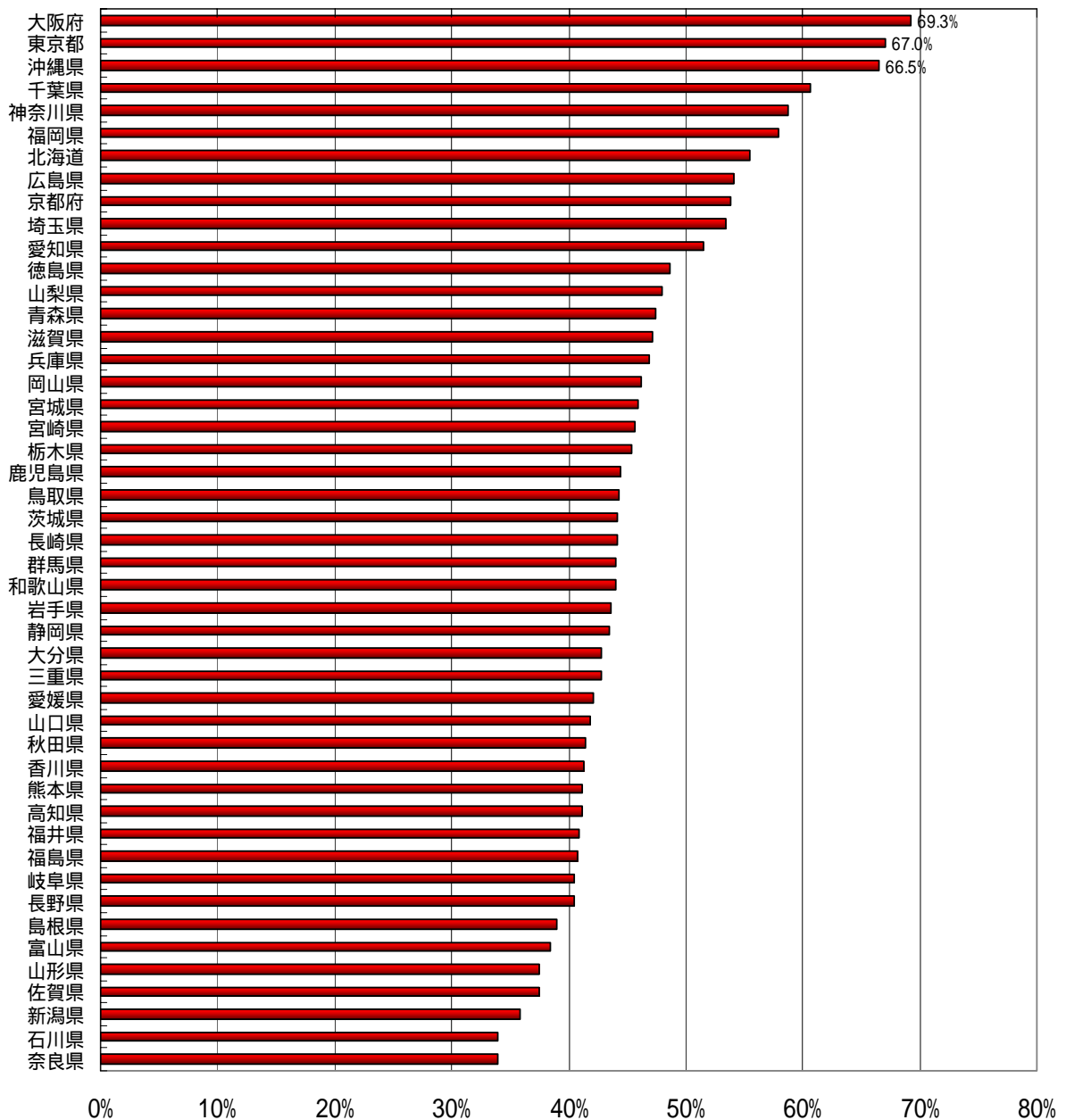


(5) 都道府県別定員稼働率

都道府県別の施設の定員稼働率は、大阪府が最も高く、第2位が東京都、第3位が沖縄県

都道府県別定員稼働率

(%)



前年調査(6月～8月期)との比較分析

1. 比較分析の概要

今回調査(7月～9月)のうち7、8月分及び前回調査(4月～6月)のうち6月分を合計した6月～8月分と、前年調査(第二次予備調査(6月～8月))を比較分析した結果は以下のとおり。()

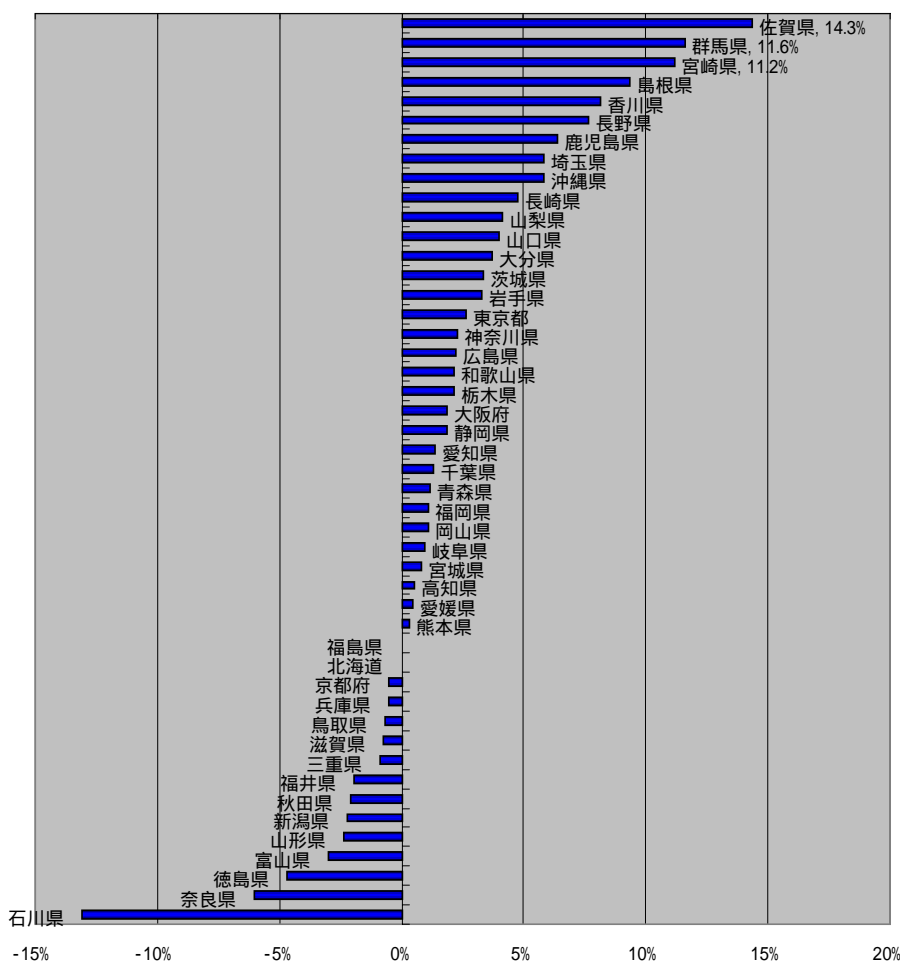
2. 分析結果

(1) 延べ宿泊者数比較

都道府県別延べ宿泊者数

延べ宿泊者数は、前年同期比1.8%の増
前年同期比で10%以上の増加は、3県(佐賀県(14.3%増)、群馬県(11.6%増)、宮崎県(11.2%増))

都道府県別延べ宿泊者増減率順位(6月～8月期)



()比較分析に当たっては、今回調査、前回調査及び前年調査の全てに回答が得られた宿泊施設のデータを比較することにより、延べ宿泊者数等の増減を求めた。

対前年同月比増減率の特徴的な県

新潟県の延べ宿泊者数の前年同月比を見ると、**6月は7.4%増**であったが、**7月は4.1%減**、**8月も6.4%減**となっており、7月16日に発生した新潟県中越沖地震による影響が表れていると考えられる。

石川県は、**6月は12.8%減**、**7月は12.7%減**、**8月13.6%減**と各月とも全ての都道府県の中で最も減少率が大きくなっており、3月25日に発生した能登半島地震による影響が続いているものと考えられる。一方、**外国人は17.7%増**(前年同期(6~8月)比)となっており、うち**韓国**、**アメリカ**からが5割以上の大幅増加となっている。

宮崎県は、**6月は9.4%増**、**8月は34.8%**と**大幅に増加**しているものの、**7月は11.6%の減**になっており、これは、台風4号が7月14日の3連休初日に九州に上陸したことに加え、昨年7月に開催された大規模なイベントやコンベンションが今年には行われなかったことによるものと考えられる。

増減率の特徴的な県

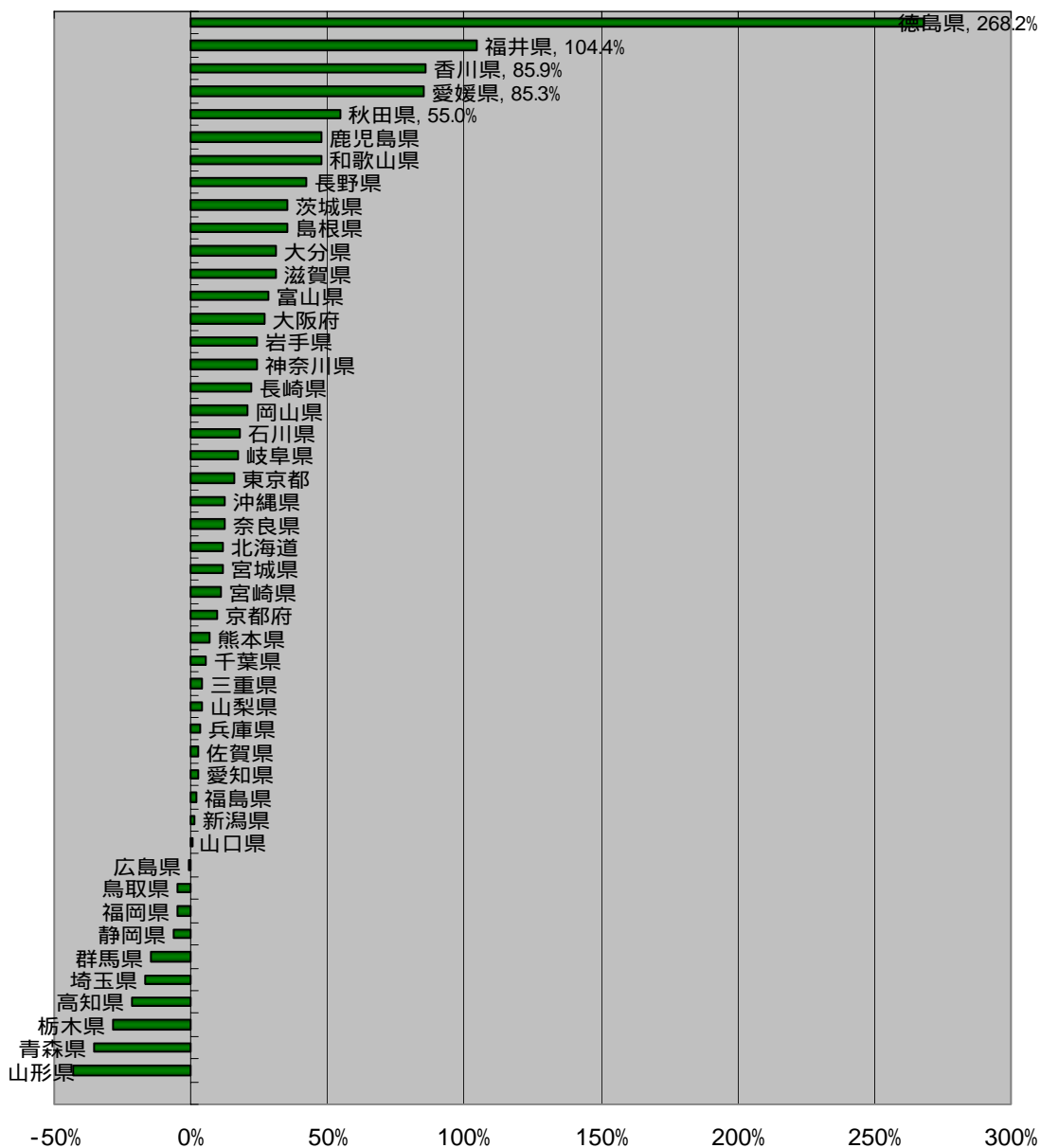
都道府県		6月	7月	8月
新潟県	増減割合	7.4%	4.1%	6.4%
	増減率順位	7位	34位	44位
石川県	増減割合	12.8%	12.7%	13.6%
	増減率順位	47位	47位	47位
宮崎県	増減割合	9.4%	11.6%	34.8%
	増減率順位	4位	46位	1位

(2)外国人延べ宿泊者数比較

都道府県別外国人延べ宿泊者数

外国人延べ宿泊者数は前年同期比13.5%の増加
 都道府県別に比較すると、増加率上位5県は、徳島県(前年同期比268.2%増)、福井県(同104.4%増)、香川県(同85.9%増)、愛媛県(同85.3%増)、秋田県(同55.0%増)

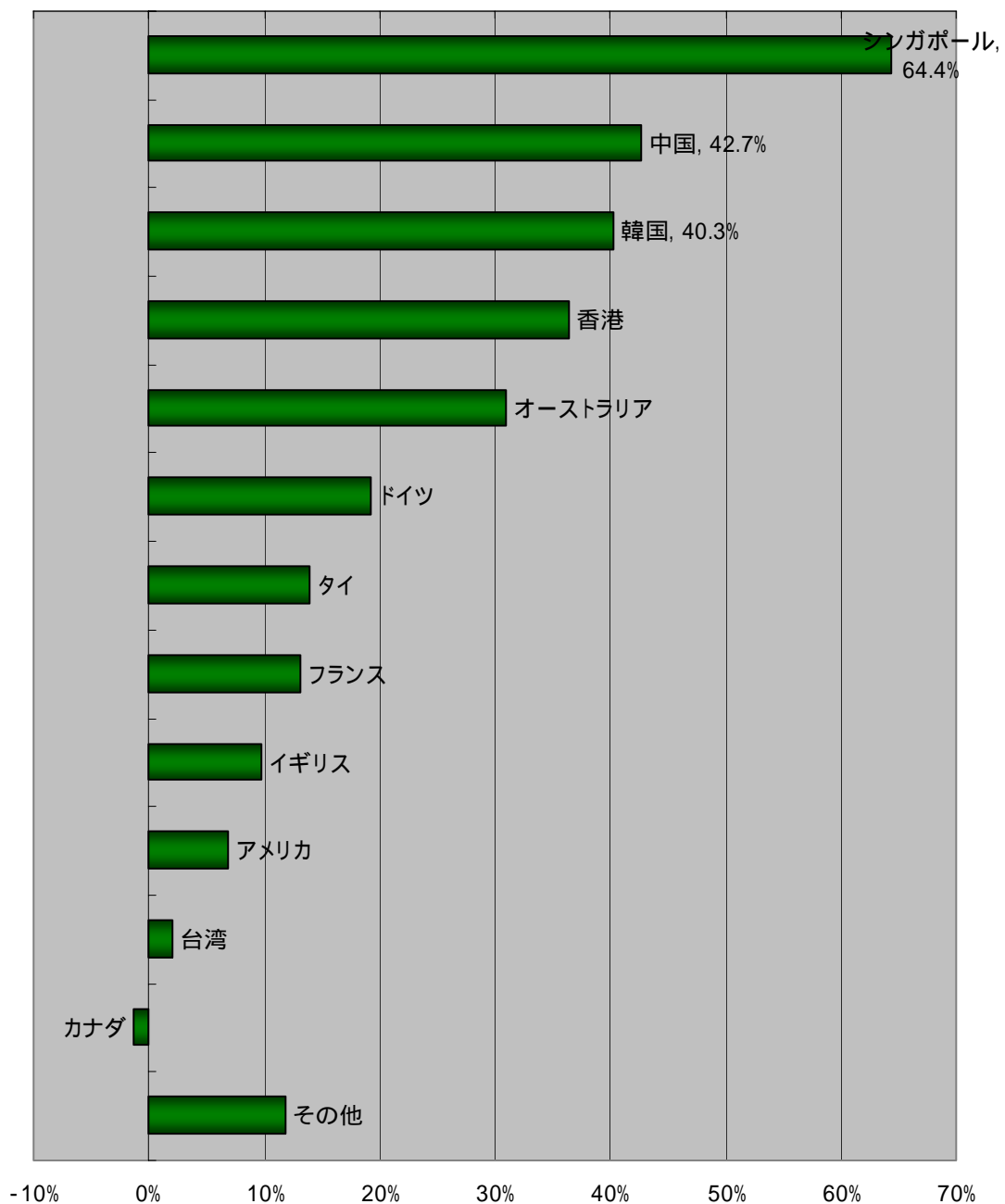
都道府県別外国人延べ宿泊者増減率順位(6月～8月期)



国籍(出身地)別比較

国籍(出身地)別外国人宿泊者数の前年同期比の増加率上位は、第1位がシンガポール、第2位が中国、第3位が韓国

国籍(出身地)別外国人延べ宿泊者増減率順位(6月～8月期)



. 宿泊旅行統計調査の詳細データについて

< 宿泊旅行統計調査 > の詳細データについては、下記ホームページに掲載しています。

国土交通省ホームページ

<http://www.mlit.go.jp/>



トップページ

統計情報

観光関係統計資料

宿泊旅行統計

(宿泊旅行統計ホームページ)